



清華亭は、札幌最初の都市型公園であった「偕楽園(かいらくえん)」の中に、開拓使が貴賓接待所として建てたものである。設計・監督は開拓使の工業局が担当し、約8ヶ月間の工事によって、1880(明治13)年6月に完成した。翌年9月1日、明治天皇の札幌行幸の際には、天皇がこの亭で御休憩されたという由緒ある建物で、建物の完成に当たって、時の開拓使長官だった黒田清隆が「水木清華亭」と名付けたことから『清華亭』と呼ばれ今日に至っている。



## 見どころ

明治天皇は札幌行幸の時には偕楽園を視察され、清華亭でご休憩を取られた。その際に清華亭の座敷から鍵型の縁側を通して庭園を眺められ、大変お気に召されたのだそう。ここからの眺めは見どころの一つである。また、和洋折衷の中での色々な試みがある。和洋両室を直接連結し、和座敷に洋風の両開扉がそのまま現れている。洋風導入過程での特異な手法で、建具額縁も洋風になっており不思議な感覚に陥る。洋室の天井中央のシャンデリア基部に、漆喰彫刻で和風の桔梗模様が施されているところや、明治初期の建築にはめずらしいポウウィンドーも見どころである。

この建物は、全体に洋風の造りの中で、至る所に和風の様式を調和させている和洋両様式を取り入れた古い建物である。自然条件の厳しい北海道で百有余年を生き抜いてきた。使用されている建材は全て道産材で、トドマツやアカマツである。土台の石や玄関のたたきには札幌軟石が使われている。また外壁は、板を一枚一枚重ね合わせた「下見板張り」になっており、隙間風などが入らず、寒地型の外壁の造りになっている。



和室は15畳の広さがあり日本の伝統的な書院風作りで、壁は京壁づくり。東側に特徴的な鍵型の縁側が配置されている。



明治13年、清華亭の建築と並行し、開拓使の指導者であったアメリカ人のケプロンに見出されたルイス・ベーマーの設計により、ゆるやかな起伏のある高低差を利用して和洋折衷の庭園が造成された。現在は、かつての「偕楽園」の姿はないが、亭の周囲には26種の樹木が四季折々の花を咲かせ、来訪者の目を楽しませている。



建物名称	清華亭
建築年	1880(明治13)年6月
構造・様式	木造平屋建
所在地	札幌市北区北7条西7丁目
電話	011-746-1088(現地警備員室)
H P	<a href="http://www.sapporo.travel/find/culture/seikatei/">http://www.sapporo.travel/find/culture/seikatei/</a>
営業時間	9:00~16:00
休館日	年末年始(12/29-1/3)
観覧料	無料
アクセス	J R札幌駅北口から西へ徒歩10分 札幌市指定有形文化財



旧永山武四郎邸は、第二代北海道庁長官・永山武四郎が屯田事務局長時代に建てた私邸である。明治10年（1877）代前半頃の創建で木造平屋建て、建築面積136.06㎡の和洋住宅である。小屋組は、洋式のキングポスト・トラス。外壁は低い堅羽目の腰を回し、上部は隅柱型付の下見板張りとしている。玄関棟の妻に十字型の飾りがついている。

敷地は札幌繁栄図録によると、木製の板塀で囲まれ、北側には2本の木製橋がかけ渡してある。玄関からホールに進み、南側の庭園に面して洋風の応接室と15帖の表座敷が続いている。2室は引き分け板戸で隔てられ、表座敷に隣接する北側の8帖脇座敷は、主人の居室と推測される。

## 表座敷



表座敷から応接室を臨む

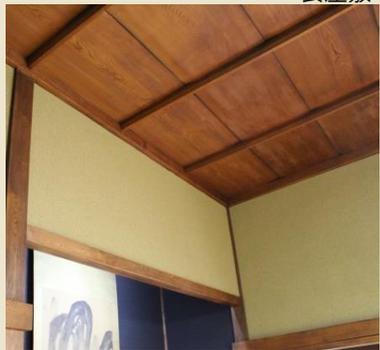
脇座敷



## 見どころ

表座敷

表座敷と脇座敷の天井は、2室とも竿縁天井だが、床差し（床挿し）になっている。これは通常は忌み嫌われるが九州地方には多く見られるようである。



特に興味深いのは脇座敷の天井板で、道産材（マツ・カツラ）の寄せ張りとしている。表座敷の板目との対比が面白い。

脇座敷



応接室と表座敷を分ける開口部の額縁は、洋室側と和室側で形状が異なり、特に和室側の額縁は、市内に現存する清華亭とよく似た形状である。

表座敷の廊下から庭に出る沓脱ぎ石は大振りの軟石を重ねたもので、玄関よりも重厚な印象を受ける。



平成17年度（2005）に大規模な保存改修工事を実施。隣接する「旧三菱鉱業寮」も平成28年（2016）から2年かけて保存活用工事を実施し、平成30年（2018）6月23日に一般公開となった。洋風2階建ての建物は、永山邸を買収した三菱鉱業（現在三菱マテリアル）が昭和12年頃に増築したものである。今回の一般公開に向けて、1階にカフェを開設。2階は貸室としても開放しており、車いす用のスロープ、トイレも設置されている。



建物名称	旧永山武四郎邸
建築年	明治10年(1877)代前半頃
構造・様式	木造平屋建て
所在地	札幌市中央区北2条東6丁目
電話	011-232-0450
H P	<a href="https://sapporoshi-nagayamatei.jp">https://sapporoshi-nagayamatei.jp</a>
開館時間	9:00~22:00
定休日	毎月第2水曜日（祝日の場合はその翌日）年末年始
入館料	無料
駐車場	身障者等用駐車場 1台
アクセス	地下鉄東西線「バスセンター前」下車、10番出口より徒歩10分
備考	北海道指定有形文化財



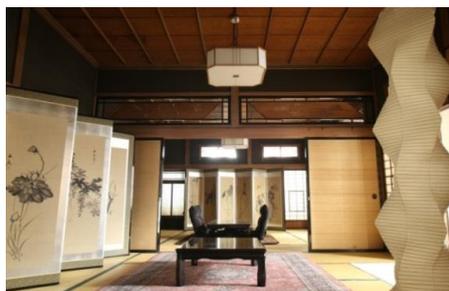
明治28年創業の岡川薬局は小樽で数少ない薬種売薬の老舗であった。昭和5年、二代目が本建物を新築。その娘は小樽で2番目の女性薬剤師であった。建設地はJR函館本線の南小樽駅の近くにあり、日本で3番目の旅客鉄道として明治13年に開通していることから、当時この周辺は商業地として繁栄していたことが窺える。

本建物は店舗併用住宅であり、主屋と石蔵から成る。主屋は木造モルタル塗とタイル貼の3階建てで赤いマンサード屋根と装飾のあるドーマー窓、2階の正面の縦長窓の中心にはかつてバルコニーが配されており、1階店舗のアーチ型ショーウィンドウ、右読みの看板など昭和の洋風な意匠が色濃く残っている。後方は切妻の2階建てである。外観は洋風だが和洋折衷の造りで、今回紹介の和室は主屋の2階にある。階段を上ると正面（道路）側に縦長の窓が迎え、二間続きの十二畳半と十畳の和室、廊下を挟んだ後方に六畳と三畳および六畳の各和室が配されている。特に十二畳半の和室は格調ある書院造りで、座敷飾り（床、付け書院、違い棚）、欄間や障子の繊細な組子細工、洗練された引手などに当時の匠の卓越した技を見ることが出来る。

1階正面の薬局は2層分の高い天井をもち、板張りの中心には漆喰塗の中心飾りが施されている。調剤室のガラス窓に当時の女性薬剤師の姿が重なるようである。

## 見どころ

岡川薬局は店舗併用住宅であり、1階正面に薬局、他は居住空間である。2階正面、縦長窓の背後に廊下を挟み、この家で最も格式の高い十二畳半の和室がある。まず目を引くのは二間半の床の間と脇床、座敷飾りである。こぶ洗い出しの重厚な床柱を中心に、付け書院の繊細な組子、違い棚には筆返しが施され、金色の天袋の鈍い輝きと鶴の透かし彫りの引手が小さいながら空間を引き締めている。続く十畳間への欄間は、松の透かし彫りと麻の葉模様の組子細工を塗り縁と竹で囲んでいる。真、行、草でいうところの行の座敷である。縁側的な廊下は洋風と和風の意匠が調和しており、かつて住人が過ごしたハイカラな日常生活に想いを馳せるのも楽しい。



二間続きの和室：  
欄間は透かし彫りと組子、竹を組み合わせ凝った造り

平成20年に四代続いた薬局を廃業。平成22年に(旧)岡川薬局として極力現状維持の状態でゲストハウス、カフェに用途変更され、観光都市小樽ならではの宿泊を軸としたビジネスモデルの創出を展開している。歴史的建造物が保存のみならず、新しい役割を見出し活用され、将来に建築文化を繋げた好例と言える。



かつての薬局は  
カフェとして営業

取材協力  
N合同会社  
建築史家 駒木定正氏  
「小樽の歴史的建造物」  
(発行:小樽市教育委員会)



建物名称	(旧) 岡川薬局
建築年	1930年(昭和5年)
構造・様式	木造3階建て・在来工法
所在地	小樽市若松1-7-7
電話	0134-64-1086
H P	<a href="http://www.re-okagawapharmacy.info/">http://www.re-okagawapharmacy.info/</a>
開館時間	公開時間: 13:00~17:00(月曜定休・要予約) 定休日: 月曜(祝祭日とその前日は営業) カフェ: 日曜・火曜・水曜 11:00~22:00 金曜・土曜 11:00~25:00 木曜 13:00~21:00(会員限定のコワーキングカフェ)
	ゲストハウス: チェックイン ~22:00 チェックアウト ~10:00
	レンタルスペース: 11:00~22:00
アクセス	JR南小樽駅より徒歩10分 駐車場有
備考	小樽市歴史的建造物、小樽市都市景観奨励賞

# 旧岡田邸（現：おかだ 紅雪庭）

北海道旭川市

きゅうおかだてい(おかだ こうせつてい)



旧岡田邸とは昭和8年に建てられた酒蔵のオーナーの自宅。完成までに2年を要し、見積もりのない建て方と呼ばれ贅を尽くしたこの建物は、いたるところに「本物」の歴史的建造物として残っている。また、別名「紅葉館」とも呼ばれ、落葉樹を巧みに活かした日本庭園も、庭師の丹念な手入れにより、今もなお美しさを保ちつづけている。



「紅雪庭」の名前の由来にもなった紅葉の上に積もる雪の様子

## 見どころ

旧岡田邸は「北の誉」という酒蔵のオーナーの自宅として誕生。正面玄関の当時では珍しい外国製ステンドグラス、西日を美しく見せる銅の入った硝子、細部に渡るこだわりの意匠、クリスタルのシャンデリア、大陸的な高い天井、遊び心のある欄窓の数々。30畳の和室とアーチ型の居間、美しい漆喰の壁、そして、秋に紅色に染まる庭園。

2年もの月日を要して建てられ『見積もりのない建て方』と言われるお屋敷は、和と洋との空間を巧みに合わせ持つ北国らしい建物である。

建築物を生きし、新しい息吹を与えて守っていく「動態保存」というカタチで、現在は蕎麦と日本料理「紅雪庭」として食事を楽しみながら、建物を堪能する事ができる。

## 【沿革】

1933年（昭和8年）清酒北の誉創設者岡田重次郎宅として建築。

1934年・1938年には皇室の方にご宿泊頂いている。

岡田邸は、重次郎、正平、正雄と三代に渡り住み、

2003年10月より、京都在住の資産家が所有。

取り壊しが危ぶまれていた岡田邸を何とか残したいと

2009年10月 旧岡田邸200年プロジェクトチームを発足。

2010年10月 一般財団法人旧岡田邸200年財団を設立。

2011年5月 財団が京都の資産家より買取、現在に至る。



撮影：山崎一



建物名称	旧岡田邸（現：おかだ 紅雪庭）
建築年	1933年（昭和8年）
構造・様式	木造2階建て
所在地	旭川市5条通り16丁目
電話	0166-22-5570
H P	<a href="http://okadatei.jp/index.html">http://okadatei.jp/index.html</a>
営業時間	昼 11:30 ~ 15:00 夜 17:30 ~ 21:30
アクセス	旭川駅よりタクシーで7分 駐車場有



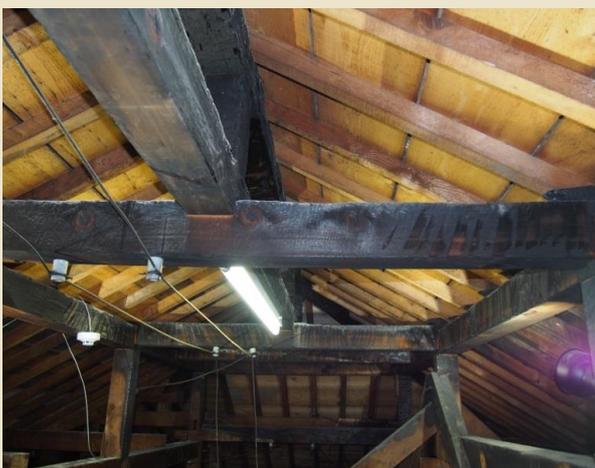
大広間から臨む庭園



函館港を一望できる敷地

## 見どころ

旧相馬邸は一代で築いた函館の豪商相馬哲平の私邸。1907年（明治40年）の大火で他は類焼し蔵のみが残る。翌1908年（明治41年）大火復興のシンボル「希望の星」として建てられた建物で、職人や材料は全国から一級品を取りよせた。1921年（大正10年）に再び大火に見舞われたが一部の損傷のみで助かった。木が自らを火事から守った痕跡がある。2008年（平成20年）まで子孫の方が住まわれていたが、現在は一市民が所有し、一般に公開しながら保存している。



1854年（嘉永7年）日米和親条約で箱館開港した歴史から和洋折衷が函館のスタンダード。

傾斜のある地形を活かして石垣を築き、その上に敷地を造成している。イギリス領事館を見下ろす場所で、領事館の庭も港へと続く景観もすべてを私邸の庭としている空間づくりに商人の心意気を感じる。

特別な人のためのむくり屋根の大きな玄関、外国の客人をもてなす配慮、大広間の掛け軸や家財、いたるところに使われている屋久杉の一枚板、見る位置によって表情を変える書院造り、部屋ごとにデザインが違う釘隠しなど、細部にまで贅を尽くされた家は寒冷地ならではの工夫も見られ、当時の暮らしの息遣いが感じられる。

蔵を歴史回廊、歴史的美術館のギャラリーに変え、北海道の宝と言われている江差屏風やアイヌ絵巻など、当時の北海道の風土や賑わいがわかる資料の見学もできる。



多くの方に「旧相馬邸」に入館頂き、110年以上歴史が続くこの家を未来へつなげてゆきたいと協力を呼びかけている。

建物名称	旧相馬邸
建築年	1908年(明治41年)
構造・様式	木造平屋、一部2階建て
設計・施工	筒井与三郎
所在地	函館市元町33-2
電話	0138-26-1560
H P	<a href="http://www.soumatei.com">http://www.soumatei.com</a>
開館時間	4月～11月 9:30～17:00(木曜日休館)
入館料	一般/800円、高校生/500円 修学、自主研修/300円、 中学生以下/300円 修学、自主研修/200円
アクセス	市電 函館どつく前行「末広町電停」下車、 徒歩5分、駐車場有
備考	文科省指定「伝統的建造物群」歴史的建造物 写真提供：旧相馬邸